

1. 調査報告概要表

[認知症対応型共同生活介護用]

作成日 平成19年9月28日

【評価実施概要】

事業所番号	2772401291
法人名	医療法人 加樟会
事業所名	グループホームくすのき
所在地	枚方市養父東町18番30号 (電話) 072-836-8668

評価機関名	社会福祉法人 大阪府社会福祉協議会
所在地	大阪市中央区中寺1丁目1番54号 大阪社会福祉指導センター内
訪問調査日	平成19年9月3日

【情報提供票より】(平成19年8月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成13年6月1日		
ユニット数	1ユニット	利用定員数計	9人
職員数	7人	常勤	6人, 非常勤 1人, 常勤換算 6.8人

(2) 建物概要

建物構造	耐火建築 造り		
	2階建ての	1階 ~	2階部分

(3) 利用料金等 (介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	52,500円	その他の経費(月額)	11,040円
敷金	有(円) 無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円) 無	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 1,925円		

(4) 利用者の概要 (平成19年8月1日現在)

利用者人数	9名	男性	5名	女性	4名
要介護1	2名	要介護2	2名		
要介護3	3名	要介護4	2名		
要介護5	0名	要支援2	0名		
年齢	平均 86歳	最低	72歳	最高	99歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	佐藤病院、佐藤医院
---------	-----------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

医療法人系の老人保健施設との併設ホームで開設6年目、1ユニットで利用者のニーズに応え、これまでのライフスタイルを取り入れ、利用者に合わせて一日を過ごすことをモットーに取り組んでいます。管理者は看護師としての経験も長く、安心して暮らしています。また、必要に応じてクリニックの受診も受けられ、24時間緊急対応してくれる病院も確保しています。職員の異動も少なく定着していて、利用者の心情に沿った対応を可能にしています。隣に併設されている老人保健施設が緊急の避難場所に指定されていて安心です。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連科目:外部4) 外部評価結果はミーティングで報告、金銭出納帳に家族の確認時の日付とサインの記入を実行しています。職員も利用者と共に同じ食事を摂るといふ件については、現在も改善に向けて検討中です。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 自己評価は主に管理者が作成し、職員に確認していますが、サービス評価の意義や目的を全職員で共有するため、全員で取り組むことが求められます。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6) 運営推進会議の議題として、今までの散歩コースは交通量が多いため変更について検討しており、新コースについては市道か私道にするか、許可が必要かどうか、また近隣からの苦情等についても話し合わせ、確認の結果、安心して散歩に出かけられるようなコースに変更されました。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8) 玄関脇に苦情箱を設置しています。家族には職員が声かけをして、苦情や意見を聞くようにしています。また、家族には必ず月1回は訪問してもらい、要望などを出してもらえるように配慮しています。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 地域と家族と共に支えるケアを実施するということで、中学校の文化祭や地区の運動会に参加したり、夏祭りや夜店でお茶をいただく機会もあります。また淀川資料館へ行って折り紙の折り方を習う等、地域で様々な交流を図っています。居宅介護者からストレスについて、対応の仕方や介護の方法を学びたいとの要望もあり、取り組み始めています。

2. 調査報告書

(部分は重点項目です)

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○ 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「ゆっくり」「地域住民と」「一緒に」との新しく作られた理念のもと、地域と積極的に交流を持ち、安楽な生活ができるように支援しています。ホーム内で理念を新しく作り変えて、地域密着型サービスを目指しています。		
2	2	○ 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員の採用時には必ず理念を伝え、利用者の意志を尊重し、地域密着の意義を職員全体で申し送り、ミーティング、会議で確認し共有しています。理念は、玄関、事務室、ホーム内の見やすい場所に掲示しています。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○ 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに務めている	障害者が運営する近隣の喫茶店へ行き、コーヒーを飲みながら談笑しています。教会の子供たちが、敬老の日とクリスマスに訪問し歌を歌ってくれます。また、運営推進会議に自治会からの参加もあり、地域行事の予定を教えてください、利用者と共に参加しています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回の外部評価結果はミーティングや会議で報告しています。伝達書類、金銭出納簿の確認時のサイン等は改善されています。自己評価の作成については、職員の意見は聞いていますが、管理者のみにより作成されています。	○	評価結果については改善計画を作成し自己評価の作成も職員と一緒に取り組むことが求められます。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議において外部評価の結果が公表され、改善に向けて話し合われています。会議の結果、具体的に改良された点もありました。運営推進会議には、市の地域包括支援センターからも参加があり、会議毎に情報交換を行っています。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会づくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	地域包括支援センターより運営推進会議に参加を依頼しています。その際に情報を伝えたり、意見をもらったりしています。市の担当者とは連絡を取り合っており、相談もしています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族へは、くすのきだよりを3ヶ月に1回発行し、行事案内・写真等で利用者の日常の様子を知らせています。家族には毎月来訪してもらい、金銭管理の確認や利用料の納入をしてもらっています。その際、健康状態や生活状況を説明しています。また面会時間は自由にしています。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関脇に意見箱を設置しています。家族が面会時に意見を言えるように努めていますが、今後はさらに家族会が開催できるよう話し合っていくことが望まれます。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	1年間職員の異動はありません。職場のチームワークを良くし、利用者に落ち着いて暮らして頂けるよう配慮をしています。認知症の利用者にとって馴染みの関係は大切なことであり、今後も異動を最小限に抑えることが期待されます。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人による内部研修、職員の希望による終末期ケア等外部研修にも参加しています。ミーティング時に伝達研修をしており、研修記録ノートもあり資料は貼っていますが、今後は伝達確認のサイン取得が期待されます。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者は系列の事業所と交流を持つ機会があります。また、枚方市のグループホーム連絡会が発足され参加しています。今後は、他の事業所との交流や勉強会にも取り組むことが期待されます。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人や家族に事業所を見学してもらい、納得してから入居に至っています。家庭を訪問して面接したり、入居施設へも出向いて説明しています。利用者に応じて馴染んでもらえる雰囲気作りに努めています。同法人の通所サービスを利用して、徐々に馴染んでもらえる機会を作ること期待されます。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者と共に暮らすということを大切に、利用者一人ひとりの特性を発揮できる機会を作っています。カーテンを引くことを毎日の日課にしている利用者がいます。また他の利用者にも写経や貼り絵を覚えてもらう等して活躍の場を作っています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者一人ひとりの今までの暮らしぶり、趣味や好み等、思いや希望の把握に努めています。絵が上手な方にはその支援をしたり、日めくりを作成してもらったりして喜ばれています。利用者の生活歴を大切にしながら支えています。個々の利用者の記録に書き加えて、職員間で共有されることが望まれます。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	毎月の全体会議に職員が参加して、介護計画についての意見を述べています。利用者や家族の意見も取り入れて反映させています。アセスメントについても生活歴やライフスタイルについて記載し、利用者や家族が望まれる生活になるよう取り組んでいます。作成した介護計画書については、利用者や家族の同意も得ています。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画については3ヶ月から6ヶ月ごとに見直しを行っています。目標については、日々の記録や週ごとのミーティング、不定期の会議での話し合い、利用者の状態の変化や状況、家族や利用者の要望に応じて見直しています。アセスメント記録、カンファレンス記録、モニタリング記録や見直された介護計画書もあります。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援（事業所及び法人関連事業の多機能性の活用）					
17	38	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	地域の要望により、認知症の介護の仕方や心構え等々の勉強会を計画しています。困っていることについての相談にも応じる体制があります。最近、終末期の利用者についても、家族の希望により看取りを行いました。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援の協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	併設のクリニックに週2回の受診、検診を実施しています。通院の仕方についても家族と話し合っています。夜間の緊急時にも、協力病院を確保して体制を整えています。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	終末期や重度化に対するケアについては医師や看護師、介護職員、家族と話し合い、意見を確認しながら方針を決定しています。また、情報の共有もしています。終末期ケアを受けるについては、ホーム管理者は看護師であり、職員が皆で受け入れ、体位交換等苦痛を和らげる工夫をする等、見送られた家族からも感謝されています。今後に向けて職員間で反省会や勉強会を開く予定です。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援 (1) 一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員一人ひとりが勉強会やミーティングの折に意識向上を図っており、また日々の介護の場面でも利用者を尊重した対応を心がけています。利用者の誇りやプライバシーには注意を払っています。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日の日課は決められていますが、利用者の日々の体調や希望に合わせて暮らしてもらっています。 できるだけ個別性に配慮しながら支援を行っています。買い物や散歩など、一人ひとりの状態に配慮しながら希望に添えるよう支援しています。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は系列施設より運び、盛り付けや食器洗いはホームで利用者と共に行っています。現在は職員と利用者は同じ食事を摂っていませんが、おやつ作りは月2回、お好み焼きやたこ焼き等を作り、大変喜ばれています。また利用者の希望、家族の了解を得て晩酌も楽しんでもらっています。	○	食事の準備に関しては、五感刺激のためにも、利用者と共に献立作りや調理をすることが求められます。また職員も同じ食卓で同じ食事を摂りながら、食事を楽しむことが求められます。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴については曜日や時間が決まっていますが、入浴拒否がある場合は曜日を変更するなど、希望時に入浴できるように支援しています。しかし現在、入浴回数は週に2回となっています。	○	夏場はシャワー浴、冬には足浴等入浴支援の工夫を行っていますが、今後は週3回以上の入浴が求められます。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	陶芸の好きな方は紙粘土で作成した作品を飾り、ちぎり絵、折り紙、押し絵等、職員と共に楽しんでいます。特に公園の散歩では公園にいる子どもたちと会話を楽しんでいます。居室にお仏壇がある方は毎日の水替えや、お経をあげてもらえるようお坊さんをお呼び等支援しています。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	ホームの周囲は広い道路に面しており、散歩コースを安全な道へと検討し、新しい散歩コースでの散歩を始めています。おやつや日用品の買い物は職員と一緒に出かけしています。利用者の希望でカラオケやお楽しみ会を開催しています。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	ホームは交通量の多い道路に面しています。横断歩道もなく危険なため施錠していますが、利用者が外出を望む時には職員が同行し、外出支援を行っています。現在は、お花の水遣りや系列施設への食事を取りに行く時のみ開錠している状況です。	○	利用者の状態を確認し、職員の見守りが可能な時間帯には開錠するなど、自由な暮らしへの更なる取り組みが求められます。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の協力を得て年2回避難経路の確認及び消火器の使い方などの訓練を実施しています。また災害対策のマニュアルも作成しています。近所の方とも挨拶を交わしており、緊急時に協力してもらえる関係作りができています。隣接の老人保健施設が地域の避難場所に指定されていることにより安心感を与えています。今後は更に非常用食品や物品の用意が望まれます。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者一人ひとりの食事摂取量や水分量については大まかに把握しています。食事は厨房より配膳されて一日のカロリー計算については管理栄養士によって行われています。肉アレルギーの方への対応や病気のため減塩の必要な方には支援をしています。水分摂取量についてはおおよそ把握していますが、記録がありません。	○	水分摂取を嫌がる傾向のある利用者、飲み込みの悪い方については、水分量の記録を取ることが求められます。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関、トイレ、浴室、エレベーター等がホーム内はバリアフリーとなっており、車椅子での対応も可能です。リビングが2階にあり、オルガンやゲーム機等もあり、ゆったりとくつろげるような工夫があります。玄関周りには季節の花が植えられていて、楽しい雰囲気作りができています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には洗面所や広い押入れが設置されており、季節の衣類や紙おむつ、布団等が収納できるようになっています。遺影や仏壇を持ってこられている方もいます。 居室入り口も広く車椅子での出入りも使い勝手が良いと喜ばれています。		